長崎と多様性〈長崎大学と多様性 Vol.2〉(2021 年 10 月 4 日)

おはようございます。
長崎大学人、河野茂です。

今年は、長崎の開港 450 周年記念にあたるそうです。
https://nagasakiport450th.jp/

前図書館長の増崎英明先生が、長崎新聞に開港 450 周年の歴史のエピソードを連載しており、私も楽しみに読んでいます。私は、歴史には詳しくありませんが、長崎の歴史が、多様な文化と人種を上手に受け入れて、発展させてきたのは、間違いないのではないかと思っています。おそらく、長崎大学にもその DNA が自然と受け継がれているのでしょう。本学は、多様性のある大学として評価されています。今年度文部科学省による「ダイバーシティ環境醸成」の指標では、全国の８６の大学の中で、トップクラスと認定され、長崎新聞にも掲載されました。関係者の皆さんの大変なご努力があったものと推察します。くしくも開港 450 周年の年に評価されたのは、伝統的な長崎の文化風土が基盤にあったからでしょう。

『多様性』は、様々な側面を持っています。

新型コロナウイルスが世界中に蔓延したのは、多様な人が交わるグローバルな状況が一因であったことは間違いないでしょう。また、地球の環境が侵されてプラネタリーヘルスが侵害されたのは、多様性を無視した環境破壊が一因でしょう。『多様性』に、様々な側面はありますが、未来は『多様性』を利用して切り拓いてゆくしかないことは、間違いないと私は思っています。年齢の枠、人種の枠、男女の枠、国籍の枠、価値化の枠…、様々な人々の枠を超えるような意識や概念が、多様に交わり、何かが生まれ、ブレークスルーが起こると思います。かつての、長崎の文化のように。

明日からは、専門家の先生に、『多様性』をキーワードにした本学の戦略や世界の動向について、情報提供を頂きます。

第 50 回は、ダイバーシティ推進センター センター長・教授
吉田　ゆり先生に本学の『多様性』の現状について。

第 51 回は研究・社会連携・戦略企画担当理事の永安武教授に、
『研究・社会連携と多様性』について。

第 52 回は、プラネタリーヘルス担当学長特別補佐
渡辺知保先生に、『プラネタリーヘルスと多様性』について。

第 53 回は、『新型コロナウイルスの多様性と今後の見通し』を
熱帯医学研究所の森田公一教授にお願いします。

ぜひ、皆さんからの『多様性』に関するご意見を頂きたいと思います。
メールを待っています。

長崎大学　学長　河野　茂